

— 松下圭—理論に学ぶ—

市民自治を 考える集い

「私の社会・政治・行政理論の〈方法論〉は、最初の『市民政治理論の形成』、また『現代政治の条件』以来きずきあげてきた〈歴史・構造〉方法である。つまり、歴史の変化のなかに現実の構造変化をみ、また現実の構造変化をおしすすめて歴史の変化をつくりだす、という考え方を私はとっている。それゆえ私の理論の立ち位置は、市民起点の〈自治体改革〉からはじまる〈市民型構造改革〉である。」

2年前に85歳で永眠した松下圭一氏は絶筆となった「私の仕事」の中で、自らの理論活動をこのように振り返っています。1975年に岩波新書「市民自治の憲法理論」が刊行されたとき憲法学者も行政法学者も誰一人反論できず「松下ショック」と言われました。その松下圭一先生「追悼の集い」を開催します。松下理論を今まで知らなかった方もぜひ、ご参加ください。

■日時 2017年 **5月21日** (日) 13時~16時 (受付開始 12時30分)

■会場 **北海道自治労会館3階第1会議室** (札幌市中央区北6西7)

■参加費 **300円**

■プログラム

森啓氏の講演「松下理論とは」ほか、自治体職員からの論点提起、会場討論などを予定。

■定員 60名

■申込・問い合わせ

メール：matusitarironkenkyukai@gmail.com
電話：090-9081-3454 (今川)

*できるだけ5月15日までに申し込みください。
当日参加も可能ですが申込の方が優先となります。

■主催 「松下圭一理論に学ぶ」実行委員会
協力 エンレイソウ九条の会

松下圭一 まつした・けいいち

1929年福井県福井市生まれ。東京大学法学部で丸山ゼミに参加、東京大学学生新聞編集長を務める。卒業後は法政大学助手、助教授を経て1961年に教授。2000年に定年退職し、法政大学名誉教授。2015年5月6日逝去。『シビルミニマムの思想』で毎日出版文化省受賞(1971年)、編著『市民参加』で第7回吉野作造賞受賞(1972年)、『政策型思考と政治』でNIRA 東畑精一賞受賞(1991年)。『市民自治の憲法理論』、『社会教育の終焉』、『日本の自治・分権』など著書・編著・共著多数。